

第22号 **長崎県障害者****社会参加推進センターNEWS**

発行 長崎県障害者社会参加推進センター
〒852-8104 長崎市茂里町3番24号 県総合福祉センター内
TEL : 095-842-8178 FAX : 095-849-4703
Mail : hdcps-suishin@mbn.nifty.com

WEBで 検索 

ながさきピース文化祭2025

長崎県障害者芸術祭

南島原公演・大村公演

今年の長崎県障害者芸術祭は、第40回国民文化祭・第25回全国障害者芸術・文化祭「ながさきピース文化祭2025」の長崎県実行委員会主催事業として開催しました。ダンスや器楽演奏などを披露する「南島原公演～みんながピースなステージ～」、ベートーヴェン「第九」の合唱を中心とした「大村公演～みんながピースなコンサート～」の2公演を催し、多くの皆様と音楽を通じた交流となりました。

長崎県障害者芸術祭のレポートと、令和7年度の推進センター取組み事業をご紹介します。



ごあいさつ

長崎県障害者社会参加推進センター
所長 上田 崇仁



新たな年度を迎えるにあたり、日頃より長崎県障害者社会参加推進センターの活動にご理解ご協力をいただいております、関係者および団体に対し、心より感謝の意を込め挨拶を申し上げます。

昨年は長崎県において、第40回国民文化祭・第25回全国障害者芸術・文化祭「ながさきピース文化祭2025」が開催され、その一環として、南島原市のありえコレジヨホールにおいて、「長崎県障害者芸術祭 南島原公演～みんながピースなステージ～」として、県内で舞台芸術活動に取り組む皆さんによる祭典を開催し、続いて大村市のシーハットおおむらメインアリーナにおいて、「長崎県障害者芸術祭 大村公演～みんながピースなコンサート～」として、長崎OMURA室内合奏団との共演で「第九」を披露されました。

また今回のコンサートでは、県内初となる、ホワイトハンドコーラスによる「手歌」との共演もあり、今までに感じたことのない驚きと感動を経験させていただきました。

本年度は、12月に新上五島町において、関係各位のご努力により、初めて長崎県障害者芸術祭が開催されます。上五島の皆さんが、地元の特徴を生かした作品や、出し物を表現していただければ、“自分たちの芸術祭”を楽しんで開催できると思います。私たちは、皆さんが楽しんでる姿を見ることで、感動を得ることができるのです。

最後になりましたが、障害者社会参加推進センターの活動に関係されている皆様の、ご健勝ご多幸を、心より願って、ご挨拶とさせていただきます。

「ながさきピース文化祭2025」長崎県障害者芸術祭レポート

第40回国民文化祭・第25回全国障害者芸術・文化祭「ながさきピース文化祭2025」の一環として開催した今年の長崎県障害者芸術祭は、拡大版として、2公演を開催しました。

まずは9月21日(日)、南島原市ありえコレジヨホールでの「南島原公演～みんながピースなステージ」。日頃から舞台表現活動に取り組む9つの団体が県内より参集し、太鼓などの器楽演奏、バンド演奏、ダンスや歌など、多彩なステージを披露しました。またフィナーレでは「ながさきピース文化祭2025」を記念して全国から詩を募集しつくられた「わたぼうしコンサート」オープニングソング『笑顔』を出演者全員で合唱し、笑顔いっぱいの日となりました。



〈上〉島特太鼓(オープニング演奏)

〈下〉車いすダンスチェリーブラッサム&かとうフィーリングアートパレエ(車いすダンス&アートパレエ)



TEAM PURE PURE(ピアノ演奏・ダンス・うた)



つくしミュージックバルクラブ(トーンチャイム演奏)



Jellyfish(シンセサイザー演奏)



ウィーピングスマイル(ヘルマンハーブ演奏)
Adventureワーク2025(ダンス)

FUGENMUGEN 'S(バンド演奏)
フィナーレ演目(わたぼうしコンサートオープニングソング他)



今回の芸術祭への参加は、演奏の完成度や上手さを競う場ではなく、音を出すこと、音に反応すること、その場に居合わせることで、そして何よりも演者自身が心から楽しめること自体が大きな意味を持つ時間でした。音の出方や関わり方が、そのまま場の空気をつくり、予定調和ではない音楽の在り方が自然に立ち上がっていたように思います。音楽が「指導される活動」ではなく、関係性として共有される経験を、私たち自身も改めて考える機会となりました。

強度行動障害9名中7名！音楽の前ではアーティストです！
-----社会福祉法人悠久会 トカトカどん

続いては、11月16日(日)、シーハットおおむらメインアリーナにて「大村公演～みんながピースなコンサート～」を開催しました。長崎県障害者芸術祭の主演目として歌い継いできたベートーヴェン「第九」を、県内唯一のプロオーケストラ「長崎OMURA室内合奏団」の演奏で披露しました。今回は、手の動きや表情で音楽を伝える「ホワイトハンドコーラス」に初めて取り組み、耳の聞こえない・聞こえづらい人たちと共に音楽を表現し、また鑑賞するスペシャルなコンサートとなりました。

他にも、「わたぼうしコンサート」大賞受賞曲他の披露や、中倉啓輔さんによるヴァイオリン演奏、掛谷剛志さんによるピアノ演奏ステージで、音楽の魅力を発信しました。

県内各地から参集した障がいのある人ない人約130名による合唱団は、6月から数か所に分かれて練習を開始し、慣れないドイツ語に苦労しながらも奮闘しました。

また、この芸術祭のために結成した「ホワイトハンドコーラス長崎」は、日本各地でこの「手歌」を広める活動をしている「ホワイトハンドコーラスNIPPON」のコロナえりかさん他の指導のもと、1年前から少しずつ活動を開始し、初めて手話表現に触れる方も多い中、約30名が練習に取り組みました。

「声の歌」と「手歌」がひとつになった「第九」の演奏は本当に素晴らしく、会場には多くの感動の拍手があふれました。



・わたぼうしコンサート大賞
受賞曲他披露
・ヴァイオリン二重奏
・掛谷剛志さん特別ステージ

県障害者芸術祭の「第九」は半年練習した。本番の前の日まで練習を続けた。僕は歌えるかどうか不安だったし、4人の仲間もそうだった。

11月16日、僕は緊張のあまり朝ごはんを食べられなかった。でも本番はよく歌えたと、仲間もそうだった。参加する仲間と一緒に作り上げたからだと思う。兄夫婦も来てくれたし、職員さんも応援に来てくれたので良かったのかなと思う。忘れがたい思い出になったのではなからうかと僕は思う。

-----もみの木園 南 勝彦(合唱参加)

親子3人で参加しました。下の子(ちあき)はダウン症ですが、たくさんのおたたかい言葉をかけてくださり感謝しています。

コロナさんが目標にされている「誰も置き去りにされない世界」の意味を今回ハンドコーラスの一員として関わって、心からわかった気がします。

私たち3人は、音楽っていいねと十分に楽しめています。しかしもししたら世界には音楽を楽しんでいない人がたくさんいるのかも。そういう世の中は嫌だ！と、上の子(いちか)と話しているところです…

娘は娘のできることを、私は私のできることを、やっつて、コロナさんの目標としていっしょの世界の実現を一緒に見たいです。

-----浦 華陽子さん、一華さん、千陽さん
(ホワイトハンドコーラス参加)



初めて、手歌での第九に参加しましたが、こんなに素晴らしいパフォーマンスができてとても楽しかったです。こんなに第九の意味を考えたことなかったです。思いっきり全身全霊で体全体で心を込めて伝えたいつもりです。

ベートーヴェンも聴覚障害者であったのに、同じ聴覚障害者が参加できなかった第九は本当の第九ではなかったなあと改めて感じました。合唱よりも演奏よりも手歌の方が伝えられたなあと感じました。こんな貴重な体験できて嬉しかったです。

またの機会があれば、ぜひ参加したいです。みんなで第九を共有していきたいです。

-----Iさん(ホワイトハンドコーラス参加)

ながさきピース文化祭2025に関わりたくて、ピースアート展の「詩」の出展と第九の合唱に参加しました。最初は日本語の歌詞があるだろうと思っていましたが、全部ドイツ語だったので正直焦りました。ですが、施設に教えに来られた声楽の西岡先生、ピアノの井川先生のやさしく楽しい指導で歌えるようになりました。

本番当日はおもいきり歌えました。先生方、本当にありがとうございました。

-----もみの木園 濱崎敏明(合唱参加)

練習期間は短かったのですが、終わった瞬間、目頭が熱くなって涙がこぼれそうになりました。今まで手話コーラスは何度も体験していたけど、初めての感動でした。

「見る音楽」を今日、多くのろう者が体験したと思います。コロナ先生の目指しておられることの凄さを感じて、私も共感しました。手話を通じて音楽の魅力を伝えること、素晴らしい取り組みだと感じました。

今日の出会いに感謝します。

-----手話サークル会員Mさん
(ホワイトハンドコーラス参加)



6月～11月で十数回の練習と2回のリハーサルに参加して、第九の曲と独語の歌詞を必死で覚え、歌いこみました。全盲で歌詞が見えず、頭に入れて歌うしかないので、大変苦戦しました。が、自宅での自主練の甲斐もあり、本番前に概ね覚えることができました。公演当日は幸い体調もよく、コンサートを楽しみに待つ気分で本番に臨めました。

本番では音を外す箇所が多少ありましたが、気持ちを込めて大きな声で歌えました。指揮者やソリスト、楽団などプロの音楽家たちと全国障害者芸術祭で共演でき、大きな安堵と感激です。大人になってからはあまり感じたことのない素敵な感情が湧いていました。

このように貴重な経験をさせていただいたこと、ご指導いただいた先生方へ深く感謝申し上げます。また一緒にがんばって歌った障害者の皆さんにも御礼を言いたいと思います。皆さんお疲れ様でした。またどこかのステージでお会いしましょう。

-----渡邊拓也(合唱参加)



長崎県障害者芸術祭を
WEB配信動画にてお楽しみいただけます。

★WEB動画の
配信情報は
こちらから



<http://nagasakiuishin.c.ooco.jp/syougai-2.html>

長崎県障害者芸術文化活動普及支援事業

障がいのある方によるアートの魅力を地域社会に発信していく取り組みを一層支援していこうと、今年度本県で開催された全国障害者芸術・文化祭「ながさきピース文化祭2025」と一体となり、セミナーの開催、相談窓口の運営、ホームページでの作品介绍・情報発信などを実施しました。

◆ながさきピース文化祭2025ながさきピースアート展◆

11月19日～23日 長崎県美術館

「ながさきピース文化祭2025」長崎県実行委員会主催事業である「ながさきピースアート展」では、障がいのある方々の作品とあわせて、県展入選作品、こどもたちのぬりえ作品などおよそ400点が展示されました。

また、キュレーターとしてお招きした中津川浩章先生による講演と、県内で活動する4人のリーダーたちとのシンポジウムも併催され、多くの方が足を運びました。



◆現場体験ワークショップ@長崎県美術館◆

2月19日 長崎県美術館

九州障害者アートサポートセンターが九州各地の文化ホールや美術館などで実施している「現場体験ワークショップ」を、長崎県美術館の全面協力のもと、県内の美術館・博物館から17名の参加を得て開催しました。

身体の不自由な方とともに実際に館内を巡り、普段は気づかなかった様々なバリアに気づくとともに、当事者の生を声を聴くことで、意識を変えることでこれからすぐにでもできるたくさんの方のことも気づくことができ、学びの多いワークショップとなりました。



◆人材育成事業(講演「全ては幸せを感じるために～やまなみ物語～」&「やまなみ工房作品の魅力を探る」作品鑑賞×クロストーク)◆

3月18日 長崎県美術館

◆発表の機会確保事業助成事業◆

「ながさきピース文化祭2025」市町実行委員会事業として実施された事業のうち、9市町による16事業に対し助成を実施しました。地域の多様な資源を生かした様々な事業が取り込まれ、各地で新しい交流の機会が生まれました。

長崎県相談支援従事者研修事業

新たに相談支援専門員として従事するために必要な「初任者研修」と、同研修の修了後5年ごとに受講が義務付けられている「現任研修」を、長崎県の指定を受け8～12月にかけて実施しました。

《初任者研修》

講義:8月27日(水)～28日(木)オンライン開催
(修了者187名)

演習:9月9日(火)～10日(水)、10月16日(木)
11月12日(水)～13日(木)
アルカディア大村(修了者64名)

《現任研修》

講義:9月26日(金)オンライン開催
演習:10月9日(木)、11月6日(木)、12月9日(火)
アルカディア大村(修了者64名)

研修は、障害福祉サービスの知識や動向を学ぶとともに、実際にサービス等利用計画を立て、グループワークや実地研修を通して振り返りを行い、気づきや学びを得ていく、実践的な内容となっています。受講者のみなさんは、利用者さんとの面接や計画立案に取り組んだり、さらには市町の自立支援協議会に参加するなどして、学びを深めました。



長崎障害フォーラム

長崎障害フォーラムは、障がいをもととした不当な差別を禁じた「障がいのある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」の普及啓発を目的に、条例制定に関わった県内の17団体で、県障害福祉課と連携しながら活動しています。

例年、障害者週間前後に県議会との共催で行っている「街頭キャンペーン」を、今年度も12月3日、浜町アー

ケードにて実施しました。街ゆく人へリーフレットなどを配布し、条例の周知を図りました。



地域生活支援事業

長崎県の委託事業として、今年度も各種別団体のお力を得て13事業に取り組みました。その中からいくつかの取り組みの様子をご報告します。

障害理解啓発研修 (知的障害疑似体験研修)

さる8月23日(土)に佐世保市相浦地区コミュニティーセンター(あいあいプラザ)にて長崎県手をつなぐ育成会障害理解啓発研修会が開催され、長崎市手をつなぐ育成会のよかよか隊が出動しました。

今回は、佐世保市育成会会員をはじめ、行政や社協、施設職員の他に多くの民生員さんなど66名の参加があり、地域のみなさんが関心を示してくださっていることが分かり心強く思いました。

この障害理解啓発研修は、長崎県の補助をいただいて県下各地での知的障害疑似体験研修会を開催していますが、佐世保市では今回で3回目となります。最初は全育連から発祥したキャラバン隊活動を知ってもらうためでしたが、2回目、3回目は各地域で自発的にキャラバン隊の立上げを支援する目的で開催しています。今回も佐世保市育成会が開催に向けご尽力下さいましたが、是非、佐世保地区でのキャラバン隊立上げを願っています。

また、当日のプログラムとしては、ゲナ星人、絵に描いてみよう、感覚過敏と低反応、A君の一日、不器用さの体験など盛りだくさんの内容となりました。みなさん熱心に耳を傾け、時にはゲナ女王のゲナ語に笑いもありで、楽しんで時間を過ごされたようです。なお、今回はプログラムの後、班に分かれて「障害のある人にどんな配慮が必要か」をテーマにワークショップを行いました。どの班からも積極的な意見交換があり、これも有意義な時間となりました。(谷)

～研修に参加して～

前半部の知的障害の疑似体験では様々なプログラムを通して、言葉が伝わらないことへのもどかしさや伝えるための具体的な言葉選び・ツールの必要性、急かすのではなく励ますことの重要性などを、体験をもって実感

県手をつなぐ育成会

することが出来たと思います。

後半部では前半部で経験した内容をもとに複数のグループに分かれ、ワークショップを行いました。今回も数多くの参加者に恵まれ、様々な年齢層や職種の方々の意見交換を行うことができました。

保護者目線、支援者目線、初めて疑似体験を経験した人ならではの目線など、ありとあらゆる目線からの意見が次から次へと出てくるとも活気のあるものになっておりました。また疑似体験(実体験)の後に意見交換を行うことで、限られた時間ではありましたが、より深く追及することができ、それぞれがさらに身近なこととして考えるきっかけの場になったのではないのでしょうか。参加者のお一人が「障害者は生きづらくて大変なんだ。何にも知らなかった」と感想を述べていらっしゃいました。地域生活の中で様々な方が抱えている生きづらさを少しでも生きやすい環境に転換していくためには「理解する」ということから始まり、そこから広がりを見せていくのかもしれませんが、今後もこういった考える機会が増え、理解の輪が広がることを願っております。

(佐世保市手をつなぐ育成会 のびのび 江口 寿一)



精神障がい者スポーツ大会

11月13日(木)、シーハット大村メインアリーナにおいて「令和7年度 長崎県精神障がい者スポーツ大会」を開催しました。今年度は、風船バレーに14チーム、ソフトバレーに11チームが参加し、応援者を含めて総勢659名が来場しました。会場には朝から活気が満ち、選手の皆さんの表情には大会への期待があふれていました。開会式では、ご来賓ならびに協力団体の皆さまより温かいご挨拶をいただき、会場全体が和やかな雰囲気になりました。続いて、協力団体である作業療法士の皆さまのご指導によるストレッチ体操で体をほぐし、いよいよ競技がスタートしました。

競技では、どのチームも日頃の練習の成果を存分に発揮し、白熱した試合が繰り広げられました。風船バレーでは「チームなごみ」が、ソフトバレーでは「チーム和みの杜」が見事優勝を果たし、ともに2連覇という素晴らしい結果を残されました。選手一人ひとりの懸命なプレー、仲間を信じ合うチームワークは、観客に大きな感動を与えました。

また、大会運営には実行委員や学生ボランティアなど46名のスタッフが携わり、円滑な進行を支えてくださいました。

昨年に続き実施した学生ボランティアとの交流会では、障がいの有無に関わらずスポーツを通じて理解を深める貴重な機会となり、参加者からも好評をいただきました。今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。

県精神障がい者福祉協会

本大会が、選手の皆さんにとって仲間との絆を深め、今後の生活や活動への励みとなれば幸いです。大会の開催にあたり、ご参加いただいたチームの皆さま、ご協力いただいた関係各位、実行委員、県立大学シーボルト校の学生ボランティアの皆さまに心より感謝申し上げます。

今後も本大会を通じて、精神障がいのある方々の社会参加の促進と、スポーツによる心身の健康増進に寄与してまいります。引き続き、皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。



家族相談員機能強化事業

この事業は家族相談員の養成や資質の向上を図ることを目的として毎年開催しており、今年度は2回開催しました。

1回目は5月26日(月)に参加者17名で開催しました。はじめに「家族相談員とは」を振り返り、その後、事例演習会を行いました。参加者の中から「相談者」「相談員」を演じていただき、「家族依存」「地域連携」の2事例を検討しました。経験豊富な皆様からピアならではの視点や多様なアドバイス等伺うことができ、学びの多い時間となりました。

2回目は3月1日(日)、講師に長崎県相談支援専門員協会 代表 藤井 修 氏をお招きして開催し、23名が参加しました。はじめに「共生社会の実現に向けて～これからの相談支援とは～」と題してご講演いただきました。その後は「親なき後について」をテーマに演習を行いました。主な課題として、次の5点が挙げられました。①生活の場の確保、②金銭管理、③身元保証・緊急時対応、④権利擁護と成年後見制度の活用、⑤孤立と精神的ケアの欠如

県精神障害者家族連合会

これらの課題に対する支援策・準備として、地域移行・地域生活支援の推進・成年後見制度・福祉サービスとの連携・親による準備と情報共有・市民後見人や団体後見の活用などが示されました。

家族としては「親なき後」ではなく「親がいるうちに」、地域の人々との良好な関係を築き、できるだけ多くのファン(サポーター)を作っていくことの大切を学びました。

今後も専門職との連携を深めながら、共生社会の実現を目指して取り組んでまいります。



視覚障害者日常生活訓練事業

視覚障害者日常生活訓練事業では、視覚障害者の皆さまからの相談に応じ、歩行訓練、日常生活動作訓練、福祉関連機器の操作訓練等を行っています。

関係する皆さまのご協力を得ながら、引き続き事業の周知を図り、視覚障害者の皆さまの社会参加を促進してまいります。今回は、諫早地区で行われた点字教室についてご紹介します。

諫早市では毎月2回、点字教室を行っています。受講者は中途失明者4名で、2名は視力がほとんどなくなった方、2名は拡大読書器やルーペなどを使って、介助なしで日常生活を送ってられる方です。

最初は感覚訓練として、点線で書かれた簡単な図形



(丸・三角・四角など)を触ることから始めます。その後、同じ形の物を探したり、点線で作られた迷路を辿ったりして点に触ることに慣れていただきます。その後、点間が日本で使われている標準の点字より少し広い間隔の点字に触る練習をします。

点字を表す6つの点の位置は中途失明者でも覚えられますが、その点に触って文字を判断するのは難しく、文章を読めるようになるまでには長い年月を必要とする方が多いのが現状です。

受講者の皆さんは教室に通い点字を読み書きするだけでなく、日常生活の困りごとや悩みなどをお互いに相談しあったりして、より前向きになっていけるようです。一人でも多くの視覚障害者が生活訓練を受けることで、少しでも多くのことを自分でできるようになることを願って、これからも点字教室を続けさせていただこうと思います。

視覚障がい者向けの事業としては、この他にも

- 点字による即時情報ネットワーク事業
 - パソコンボランティア養成・派遣事業
- に取り組んでいます。

盲ろう者向け通訳・介助員養成研修事業

今年度の現任研修会は、8月24日長崎大学(長崎市)、10月4日まちなかコミュニティセンター(佐世保市)で全国盲ろう者協会より講師を派遣いただき開催しました。

2会場とも、1コマ目「盲ろう者の移動介助の基本」、2コマ目「盲ろう者の移動介助基本実習」です。改めて移動介助の基本を学び、実際に会場内での移動介助の実習をしました。参加者からは何度も学習・実習することで身についてくるのでとても大切な研修です。との声をいただきました。

養成講座は、雲仙地区で54時間のカリキュラムを実施しました。実習では盲ろう当事者も講師として協力いただきました。

聴覚障がい者向けの事業としては、この他にも

- 手話通訳者設置事業
 - 盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業
 - 聴覚障害者意思疎通支援体制強化事業
- などに取り組んでいます。



県ろうあ協会

《事務局より》

令和7年度も、当センターの事業にご理解ご協力を賜り、ありがとうございました。「ながさきピース文化祭2025」が盛大に開催され、県障害者芸術祭やピースアート展を含む多様なイベントが催されるなかで、障がいの有無にかかわらず、ともに楽しみ、交流し、新しい価値が生まれ、まさに芸術のすばらしさを体感することができました。多くのみなさんのご参加ご協力に感謝します。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。